

平成28年熊本地震を受けた
「電気設備自然災害等対策ワーキンググループ」の開催について

1. 開催趣旨

- 本WGは、「発生の蓋然性が指摘されている自然災害等を広く対象として、現在の電気設備及び電力システムの耐性を評価し、自然災害に強い電気設備及び電力システムの在り方について検討を行う」ことを目的として、平成24年に設置。平成26年6月には、中間報告書を取りまとめ、その後、翌27年7月にWGを開催し、そのフォローアップを行ってきたところ。
- 今般、最大震度7を記録する平成28年熊本地震（以下、「熊本地震」という。）が発生し、熊本県内の広い範囲で停電が発生するとともに、電気設備についても大小様々な被害が生じた。本地震は、余震が長期継続するなどの特徴を有するとともに、復旧においても、一部送電線の使用不能により、阿蘇地域への系統からの電力供給が困難になるなど、これまでに無い対応が必要となった。
- こうした今回の被害状況や対応を振り返り、教訓や課題を抽出・検討し、今後の大規模災害への備えに活かすため、本WGを開催することとする。
- なお、本WGでの検討は、熊本地震における関係者の対応の是非を検証するものではない。

2. 検討項目

- (1) 熊本地震による各電気設備の被害
- (2) 熊本地震発生時の各電気設備の復旧対応
- (3) 今後活かすべき今回の教訓や課題

3. スケジュール（予定）

7月29日 第9回（電力設備における被害状況の概要とその評価
①、停電復旧対応の検証）

秋頃 第10回～（電力設備における被害状況の概要とその評価②）
※その後、議論を取りまとめ

以上